

# 子育て中の母親による自身の母親に関する記憶の想起

— 自由記述による検討から —

井 梅 由美子

A Study of Mother's Memory on Her Own Mother

Yumiko Iume

## 要旨

本研究では、子育てにおける世代間伝達の問題に着目し、母親たちが子育てをしている中でどのように自身の母親を思い出すのか、そのことが自身の子育てにどのような影響を及ぼすのかについて検討した。対象は第1子が0～5歳の子育て期の女性500名で、自由記述にて①子どもの頃の母親について印象に残っているエピソード、②子育てをしていて母親を思い出すのはどんな時かについて尋ねた。またあわせて、非統制的養育態度等、育児の困難について尋ねた。その結果、①印象に残っているエピソードは大きく「ポジティブ想起」「ネガティブ想起」「両価的想起」「想起なし」の4つのパターンに分けることができ、育児困難に関する尺度との関連が認められた。また、②子育てをしていて思い出す母親について、多くの人が日々の子育てのふとした時にかつての母親の関わりを思い出し、自らの子育てと照らし合わせていることが伺われた。

## キーワード

非統制的養育態度、被害的認知、母親、世代間伝達

## 1. 問題と目的

2000年に児童虐待防止法が施行され、児童虐待への対策は社会でも重要な課題として取り組まれてきている。そのような中、全国の児童相談所に寄せられる児童虐待の相談件数は増加の一途をたどり、2016年度では、122,578件（厚生労働省, 2017）で過去最多となっている。児童虐待の問題は、さまざま要因が絡み合って起こると考えられるが、育児不安の延長として捉えることができる。これまでの母親調査においても（eg. 内閣府, 2001; 小橋・入江,

2011）、子育てにおいて「イライラする」と回答した人が7～8割にのぼることなどが指摘されており、虐待の予防という観点からも、子育て家庭への支援は現在、その必要性が広く知られ、多くの自治体で取り組みがなされている（渡辺・橋本, 2014）。

虐待は子どもの心身の成長や生涯にわたる精神的健康に影響を及ぼす深刻な問題である。上記の児童虐待の件数は児童相談所に報告されたものであり、実際には、報告としてあがってきてはいないが、支援が必要と考えられる事例も数多く存在すると言えるだろう。あるいは、子育てをしている母親自身

が、自身の子育てに自信が持てず、自分の子どもへの接し方は虐待にあたるのではないかと苦しんでいるようなケースもある。いずれにせよ、母子双方のメンタルヘルスを考える上で、虐待にいたる前に、母親の抱えている困難に気づき、サポートをすることが大変重要である。

ところで、児童虐待の問題について考えるとき、「世代間伝達」という言葉がよく聞かれる。私たちは必ず、かつて自らが誰かに世話をされた記憶がある。親になり、乳児を目の前にしたとき、赤ちゃんの泣く声や、絶え間ない赤ちゃんからの要求（日々の世話）に、私たちはかつて自分が乳幼児の頃の記憶を呼び覚まされやすい（渡辺, 2008）。母親が乳児と関わる時、目の前にいる乳児は、母親の表象を刺激し、乳児との相互作用の中で起こる客観的な出来事を主観的に体験し、解釈していくこととなる（Stern, 1995）。このとき、かつて養育者との間で葛藤的な体験をしている人にとって、乳児の泣き声や要求などは、心の奥に閉じ込めておいたはずの理不尽な思いや不安を再燃させ、目の前の我が子との関係を葛藤的なものとしてしまいやすい。

世代間伝達を考える際、虐待の問題とあわせて議論されるためこのような負の連鎖が語られることが多い。しかし、世代間伝達されるものは負の情緒だけではない。栃原（2012）は、乳幼児を育てる母親に調査を行い、出産後の数か月の間に体験される「母になった自分が赤ちゃんの自分を抱いているような感覚」をポジティブな感情の追体験（世代間伝達）とし、検討している。このときに想起される母親像は、必ずしも現実の母親であるだけでなく、理想の母親像であることも指摘している。こうした理想の母親像を持つことにより、母子という絆を実感し、母親としての自己肯定感や母親としての自覚をより高めることに役立っていると述べている。

本研究では、子育てにおける世代間伝達の問題に着目し、母親たちが子育てをしている中でどのような場面で自身の母親を思い出すのか、そのことが自身の子育てにどのような影響を及ぼすのかについて、自由記述により得られた回答から検討していきたい。

## 2. 方法

### (1) 手続き

調査会社に委託しオンライン調査を実施した。回答は自由意思に基づくこと、統計データは学術的に利用することが回答前に説明され、同意した者が回答した。

### (2) 調査対象者

第1子が0～5歳の子育て期の女性500名を対象に調査を実施した。なお、第1子の年齢が0～2歳の回答者250名、3～5歳の回答者250名となるよう調査会社に依頼した。回答者の平均年齢は33.66歳（20～45歳 SD=5.08）であった。子どもの人数は1人が67.0%、2人が29.6%、3人以上は3.4%であった。第1子の性別は男児258人、女児242人であった。

### (3) 調査内容

#### a) フェイス項目

子どもの年齢、性別、子どもの人数、回答者本人の年齢等を尋ねた。

#### b) 非統制的養育態度

園田（2012）が作成した尺度を参考に、育児場面において、「子どもを怒鳴りだすととまらなくなる」など子どもへの叱責が母親のコントロールを超えて止まらない状況について尋ねた。園田（2012）による主成分分析の結果を参考に9項目を選んだ。

#### c) 育児における被害的認知

曾田・大河原（2014）が作成した育児場面において母親が子どもの行動を被害的に捉えてしまう傾向について測定する質問項目である。子どもが反抗する場面、グズグズしたり泣いたりする場面、自己主張する場面に直面した際に、母親自身がどれほどその行為から「被害感」を持つのかを尋ねており、5項目からなる。

#### d) 就学前の母子関係

酒井（2001）による就学前の母子関係に関する項目を用いた。この尺度は、Ainsworth et al.（1978）の幼少期の母子関係における、独立した3つの愛着パターンの記述を参考に作成されており、「就学前

の安定的な母子関係」「就学前の拒否的な母子関係」「就学前のアンビバレントな母子関係」の3因子からなる。井梅（2011）で分析した際に因子負荷の高かった13項目を使用した。

以上b) からd) の質問項目は全て「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」までの6件法で回答を求めた。

#### e) 自由記述による回答

回答者の母親との幼少期の関わりについて、自由記述にて回答を求めた。①「あなたが子どもの頃のお母さんとの出来事で、最も印象に残っていることを思い浮かべ、以下に記して下さい」と尋ねた。②「お子さんを育てていて、自分の子どもの頃やその当時のあなたのお母さんについて思い出すことができましたか？」と尋ね、「はい」または「いいえ」で回答してもらった。③「前問で『はい』とお答えいただいた方にお伺いします。それは、どのような時に、どのようなことを思い出しましたか？具体的にお書き下さい。」と尋ねた。

なお、その他にも母親のパーソナリティや被養育経験などいくつか質問をしたが、本論文では報告しないため、ここでの記載は省略する。

#### (4) 倫理的配慮

本研究の実施にあたり、インターネット調査会社の調査モニターとして登録している人の中から、テーマを説明したうえで匿名にて協力を募り、協力しても構わないと考える人のみが回答を行った。彼らは、モニター登録の段階で調査データを統計的に処理し発表する可能性について説明を受け了解したうえで、途中で回答をやめる権利を有していた。また、本研究は、筆者の所属大学の研究倫理審査委員会において承認を受けた。

### 3. 結果

#### (1) 各尺度の検討

##### 非統制的養育態度尺度の因子分析結果

非統制的養育態度に関する9項目について因子分析を行った結果、第1因子で全分散を説明する割

合は64.90%であったことから、1因子で使用する事とした。因子負荷は項目8についてのみ、.50を下回っていた(表1)。信頼性の検討のため、9項目を用いてクロンバックの $\alpha$ 係数を算出したところ、項目8を削除した8項目にて $\alpha=.94$ (削除前 $\alpha=.93$ )であったため、項目8を除外し、8項目を採用することとした。

表1 非統制的養育態度の因子分析結果

項目	I
子どもを怒鳴りだすととまらなくなる	.866
子どもが言ってわからなければたいたりする	.861
イライラしてつい手をあげてしまうことがある	.860
思わず子どもが傷つくことを言うてしまう	.844
子どもが言うことを聞かないと、思わずカッと	.843
なってたいてしまう	
子どもが言うことを聞くまでしかる	.839
子どもを思わず強い口調でしかってしまう	.790
なかなか子どもを許せない	.783
子どもが言うことを聞かないと家の外(ベランダ等)に出す※	.497

※ 不採用項目

##### 育児における被害的認知尺度の因子分析結果

被害的認知の5項目について因子分析を行った結果、第1因子で全分散を説明する割合は75.71%であったことから、1因子で使用する事とした(表2)。クロンバックの $\alpha$ 係数を算出したところ、 $\alpha=.92$ であった。

表2 育児における被害的認知の因子分析結果

項目	I
子どもがグズグズ言うのは、私のことがあまり好きではないからでは、と感じる	.898
子どもがわがママを言うのは、子どもが私のことを尊敬していないからだと感じる	.883
子どもが泣きやまないと、子どもに「ダメな親だ」と評価されているように感じる	.881
子どもが作った食事を食べないと、わざと自分を困らせているように感じる	.864
子どもが作った食事を食べないと、自分を否定されているように感じる	.821

##### 就学前の母子関係尺度

就学前の母子関係尺度については、以前の研究で因子の構造を検討していることから、信頼性の検討を行い、分析に用いる項目を決定した。「就学前の安

定的な母子関係」については、「私は母親のそばでは安心感があった」など5項目を採用した( $\alpha=.87$ )。「就学前の拒否的な母子関係」については、「私が泣いていても、母親は関心がなかった」など4項目を採用した( $\alpha=.85$ )。「就学前のアンビバレントな母子関係」では、「母親が出かける時には、むりやりついて行こうとした」など3項目を採用した( $\alpha=.74$ )。

## (2) 母親との出来事で印象に残っていること

子どもの頃の母親との出来事で最も印象に残っていることについて、はじめに、記述された内容を検討し、コーディング表を作成した。その後、著者(A)および、仮説を知らないもう1人(B)のコーダーが独立してコーディングを行った。コーディングの結果、初期の一致率は、88.8%であった。2者間で一致しなかった回答については、2人のコー

表3 子ども頃の母親との出来事で印象に残っていること

カテゴリー	件数 (%)	実際の自由記述例
1. 怒られた、叩かれたなどネガティブなエピソード	54 (10.8%)	怒られて叩かれた事 大きな声で怒鳴られた。家から閉め出された 母親がイライラしてよく怒るので、母親の機嫌を伺って怒らせないようにしようと気を付けていた
2. 母親の受容的なエピソード	44 (8.8%)	話を丁寧に聞いてくれた やりたいことは「やってみたら」と何でもやらせてくれたこと いじめられてることを話して救われたこと 私の欲求にはできる限り付き合い、応えてくれていた
3. 母親と一緒に何かをしたエピソード	124 (24.8%)	一緒にケーキを作ったこと 一緒に遠足に行ったこと よく一緒に買い物に行ったこと
4. 料理等、母親が自分にしてくれたエピソード	58 (11.6%)	毎日お弁当を作ってくれたこと 手作りのおやつをよく用意してくれて嬉しかった 幼稚園グッズに丁寧な刺繍で絵柄を描いてくれたこと 髪をセットしてくれた 夜寝る前にたくさん絵本を読んでもらったこと
5. 母親がどのような人物であったかの記述	8 (1.6%)	ピアノが上手だった母 明るい母 お母さんが泣いて帰ってきたことがあった
6. 母親を困らせたエピソード	4 (0.8%)	スーパーで、飴を買ってほしいと駄々をこねたこと プチ家出したこと 喧嘩をして、傷つけるようなことを言ってしまった
7. 母親を求めたエピソード	21 (4.2%)	学校から帰って来たときに母が出かけていて、ずっとドアの前で待っていたことがあった つねに母親の後ろに着いていることしか覚えてない お泊まり保育のときに母から離れられず泣いていた
8. 母親の仕事にまつわるエピソード	10 (2.0%)	母親の職場に行って仕事が終わるのを待っていた 仕事で疲れてため息をついている母親が印象深い 仕事で遅く帰って来たときに抱きついた事
9. 母の病気・死への不安	3 (0.6%)	病弱でもあり、いつ死んでしまうという不安が強かった 私が7歳のときに死んでしまったこと
10. ポジティブな思いとネガティブな思いのどちらも書かれているもの	3 (0.6%)	なかなか外に遊びに行かせて貰えなかったり、お小遣いを貰えなかったり、厳しい面があったけど、今思えば一人っ子の私を心配しての行動だったのかと思う 教育ママでしたが、料理上手で世話好き
11. きょうだいに母親を取られる等 きょうだいに関わる葛藤	6 (1.2%)	他の兄弟の世話で忙しそう 妹が生まれたとき、母親がとられるのではないかと思った 妹とケンカしてひどく私だけ怒られたこと
12. なし・思い出せない	127 (25.4%)	
13. その他	38 (7.6%)	



ダーで回答内容を確認し、最終的なコーディングを決定した。

コーディングの内容は表3に示す通りである。記述内容から、「なし・思い出せない」「その他」を含む13のカテゴリーに分類した。1番目は、「怒られた」「怒鳴られて外に出された」など、ネガティブな内容を書いているものをまとめた。回答数は54件（10.8%）であった。

次に、「話を聞いてくれた」「いじめられていることを話して救われた」など、困ったときに母親が受け止めてくれたエピソードについてまとめた。44件（8.8%）であった。

3番目に、「一緒に料理をした」「一緒にどこかにでかけた」など、母親と一緒に何かをしたエピソードが印象に残っていることとして語られており、「母親と一緒に何かをしたエピソード」としてまとめた。124件（24.8%）の記述が見られた。

4番目に、「毎日お弁当を作ってくれた」「幼稚園グッズに丁寧な刺繍で絵柄を描いてくれた」などの記述について、「料理等、母親が自分に何かをしてくれたエピソード」としてまとめた。58件（11.6%）の記述が見られた。なお、母親にしてもらった思い出として、「料理」にまつわるエピソードが全体の半分程度を占めていた。

5番目に、「ピアノが上手だった母」など、母親がどのような人物であったかを思い出して記述しているものが見られ、これらを1つのカテゴリーにまとめた。8件（1.6%）がこれに相当した。

6番目に、「スーパーで飴を買ってほしいと駄々をこねた」「プチ家出をした」など、母親を困らせたエピソードが語られており、これを1つのカテゴリーにまとめた。回答は4件（0.8%）であった。

7番目に、「お泊まり保育のときに母から離れられず泣いていた」「つねに母親にくっついていて」など、母親と一緒にいることを強く求める、あるいは一緒にいられないときに不安が高まるエピソードを語っており、これらを1つのカテゴリーにまとめた。回答は21件（4.2%）であった。

8番目に、「母親の職場に行って仕事が終わるの

を待っていた」、「仕事で疲れてため息をついている母親が印象深い」など、仕事をしていて忙しい母親を思いだしているものを1つのカテゴリーにまとめた。回答は10件（2.0%）であった。

9番目に、「病弱でもあり、いつ死んでしまうという不安が強かった」など、母親の病気や死を心配するエピソードについて1つのカテゴリーにまとめた。回答件数は3件（0.6%）であった。

10番目に、「なかなか外に遊びに行かせて貰えなかったり、お小遣いを貰えなかったり、厳しい面があったけど、今思えば一人っ子の私を心配しての行動だったのかと思う」など、母親に対するネガティブとポジティブなイメージの両方をあげている記述が見られ、これを1つのカテゴリーにまとめた。回答は3件（0.6%）であった。

11番目に、「妹が生まれたとき、母親がとられるのではないかと思った」など、母親との思い出にきょうだいへの葛藤を記載しているものが見られ、これらを1つのカテゴリーにまとめた。回答数は6件（1.2%）であった。

12番目に、「特にない」「思い出せない」など、母親との出来事で思い出すことがないと回答したものが127件（25.4%）であった。

さいごに、どのカテゴリーにも分類するのが難しい内容については「その他」としてコーディングした。その他の件数は38件（7.6%）であった。

### (3) 幼少期の母親とのエピソードと育児困難

幼少期の母親とのエピソードについて、母親に対してどのような感情を抱いていたかについて焦点化し、13のカテゴリーをさらに4つの大きなカテゴリーに集約した。

1つ目は、「1. 怒られた、叩かれた等ネガティブなエピソード」をそのまま1つのカテゴリーとし、「母親とのネガティブな思い出の想起（以下「ネガティブ想起」と表記）」とした。2つ目に、「2. 母親の受容的なエピソード」、3. 母親と一緒に何かをしたエピソード、「4. 料理等、母親が自分に何かをしてくれたエピソード」の3つをあわせて、「母

親とのポジティブな思い出の想起（以下「ポジティブ想起」と表記）」とした。3つ目に、「7. 母親を求めたエピソード」、「8. 母親の仕事にまつわるエピソード」、「9. 母の病気・死への不安」、「10. ポジティブな思い出とネガティブな思い出のどちらも書かれているもの」、「11. きょうだいに母親を取られる等きょうだいに関わる葛藤」の5つのカテゴリーについて、母親を求める気持ちが強いが何らかの不安感も同時に抱えている内容と考えられたことから、「母親との両価的な思い出の想起（以下「両価的想起」と表記）」とした。4つ目に、「12. なし・思い出せない」について、「母親とのエピソードの想起なし（以下「想起なし」と表記）」とした。また、「5. 母親がどのような人物であったかの記述」、「6. 母親を困らせたエピソード」については、母親に対してどのような感情を抱いているかが記述内容からは分からないことから、「13. その他」とあわせて、ここでの分析からは除外した。これら4つに群分けし、就学前の母子関係尺度、非統制的養育態度尺度、および被害的認知尺度の各尺度得点を従属変数とした分散分析を実施した。結果を表4に示す。

はじめに、就学前の母子関係尺度について、全ての下位尺度で有意差が見られた（それぞれ順に、 $F(4, 446) = 29.65, p < .01$ ,  $F(4, 446) = 21.16, p < .01$ ,  $F(4, 446) = 4.07, p < .01$ ）。Tukey法による多重比較を行った結果、「安定的な母子関係」では、「ポジティブ想起」および「両価的想起」の得点が有意に高く、次いで「想起なし」の得点、そして「ネガティ

ブ想起」の得点が最も低かった。「拒否的な母子関係」では、「ポジティブ想起」および「両価的想起」の得点よりも「想起なし」および「ネガティブ想起」の得点が有意に高かった。「アンビバレントな母子関係」では、「ネガティブ想起」の得点が「想起なし」の得点より有意に低かった。次に、非統制的養育態度については各群に有意差は見られなかった。最後に、育児における被害的認知尺度について、有意差が見られた（ $F(4, 446) = 7.20, p < .01$ ）。多重比較を行った結果、「ポジティブ想起」および「両価的想起」の得点が「想起なし」の得点よりも有意に低いことが分かった。

#### (4) 子育ての中で感じられる過去の母子関係

「お子さんを育てていて、自分の子どもの頃やその当時のあなたのお母さんについて思い出すことがありましたか？」と尋ねたところ、323名の回答者が「はい」と回答した。次に、「はい」と答えた回答者に、「どのような時に、どのようなことを思い出しましたか？」と尋ね、自由記述にて回答を求めた。325名のうち、15名からは回答を得られなかったため、308名の記述について、その意味内容からKJ法に準じて分類、分析を行った。その結果、5つの大カテゴリーとその他を含む17の小カテゴリーに分類された（表5）。なお、以下では大カテゴリーを《 》で、小カテゴリーを〈 〉で、実際の記述内容を「 」で記す。

大カテゴリーの1つ目には、《子どもを叱るとき》

表4 分散分析結果

	ネガティブ	ポジティブ	両価	想起無	合計	F値	多重比較
<i>n</i>	54	226	43	127	450		
就学前の母子関係							
安定的な母子関係	3.16 (1.27)	4.29 (0.97)	4.27 (0.94)	3.57 (0.79)	3.95 (1.05)	29.65**	ネガ < 無 < ポジ, 両価
拒否的な母子関係	3.38 (1.30)	2.33 (1.06)	2.39 (1.05)	3.00 (0.92)	2.65 (1.12)	21.16**	ポジ, 両価 < ネガ, 無
アンビバレントな母子関係	2.23 (1.08)	2.51 (1.07)	2.71 (0.98)	2.78 (1.03)	2.57 (1.06)	4.07**	ネガ < 無
非統制養育態度	3.00 (1.23)	2.88 (1.23)	2.85 (1.09)	3.16 (1.12)	2.97 (1.19)	1.61	
被害的認知	2.29 (1.27)	2.17 (1.09)	2.16 (1.00)	2.72 (1.11)	2.34 (1.13)	7.20**	ポジ, 両価 < 無

という共通の内容が得られた。その中でも、「叱り方がある。怒り方、言い方が似ている気がする」など、  
 「自分の息子を怒っている時、小さい頃子どもを叱っているとき、母親と同じ叱り方をして  
 自分も同じように怒られた事があるなあと思う時がある。怒り方、言い方が似ている気がする」など、  
 いる自分に気づき、〈今の自分との同一視〉が多く

表 5 子育ての中で感じられる自身の母親を思い出すこと

大カテゴリー	小カテゴリー	件数	実際の自由記述例
子どもを叱るとき	今の自分との同一視	32	叱り方が同じ 子どもを叱っているとき 母親に同じこと言われていたなど 感情的で幼い母親みたいになりたくないと思っていたが、イライラするとその姿は私と重なる 自分の息子を怒っている時、小さい頃自分も同じように怒られた事があるなあと思う時がある。 怒り方、言い方が似ている気がする。
	自分は叱って しまうが母は 違ったとの思 い	10	イライラして子供に当たってしまうときに、自分の母はこんなことしてなかったと思う。 あまり怒られた記憶がないので、自分自身が子供を叱っているときに「母はこんなときどうし ていたんだろう」などを考えた。 いらいらした時、私は我慢できないが母親は我慢していた
子どもが泣き 止まない、癩 癩等大変など き	子育ての大変 さを実感し母 親の苦勞を思 う	36	当たり前のように思っていたことも、こんなに苦勞して育ててくれたんだと感じた 夜泣きや、授乳、日中の相手が大変なとき、離乳食やごはんをつくる時、毎日母がこんな に大変な思いをして育ててくれたんだなあと思う。 私も息子と同じくあまり寝ない赤ちゃんだったので、母もこんなに大変なんだと思った。 何をしても泣き止まない、ご飯を食べてくれないなど、途方にくれるとき、きっと自分もこうし て母を困らせていたんだと感じる 子供に困らせているときに、私もこのように母を困らせていたのかと考えている。
	母親に苦勞を かけた	5	わがままなこどもだったので大変だったろうと思う 葉嫌いの私に苦勞したであろうと思った
	大変な育児を 母親はそうと 感じさせずに していたこと への尊敬	8	私が子育てに滅入った時、母は3人育てながらも楽しそうにしてたなーと思い出す 1人の相手でも大変なのによく3人の相手をしたな 食事の準備が面倒だが、母親はきちんとやっていて凄かったなと思った 子供の対応が大変な時に、母親の時代はもっと大変だったろうなと尊敬する
子どもの世話 をしている中 で、母親がし てくれたこと を思い出す	寝かしつけを しているとき	39	子供を寝かしつけているとき 寝るときに背中をトントン叩いてくれて、安心した。 寝るときに、足を触って温めてあげていると、同じことをしてもらっていたことを思い出します。 寝ている子どもが布団をかぶっていないからで起こさないようにかけてあげた時、自分も 昔親にこうしてもらってたんだろうなと思った 夜中子供をあやしているとき
	病気するとき	17	子どもが病気で看病しているとき 子供が風邪をひいて寝込んでいた時に自分が看病してもらった事を思い出しました。 子供が風邪をひいたときに、すりりんごを作ったり、うどんを煮たり、はちみつ大根を作った ときに、全て自分の母親が、私が風邪をひいたときにしてくれたことだと思ひ出した。
	(絵)本を讀ん でいるとき	15	絵本を讀んでいる時 寝る前に本を讀んであげているとき、自分も同じように讀んでもらっていた事 読み聞かせをしている時に思い出す。沢山ある中から選んで讀んでもらっていた
	授乳時	6	赤ちゃんにミルクをあげているとき 夜中に授乳で起きるとき、お母さんも眠い中、私のために頑張ってくれたこと 授乳中、私もこんな感じで安心感を与えてもらっていたのかな。離乳食、母もこんな風に作っ てくれていたんだな。
	その他の育児 場面	33	お弁当を作っているときに、作ってもらったなあ。つと。 子どもと一緒に風呂に入っている時に、母がよく私の体を洗ってくれた事を思い出す 子どもといっしょになってはしゃいでいる時、昔母も私たちと一緒にはしゃぎながら遊んでく れたなあと思う。 子供とどこかへ出かけるときに自分も子供の時いろいろな場所に連れて行ってもらったことを 思い出します。 娘の髪を結ってあげるとき
	ふとした時/ 育児全般	15	小さいことでもふと思ひ出すようになった いろんな場面で母はこうだったなあと何かが聞かれるとパツと浮かばないがよく思うときがある 育児の場面(授乳やベビー用品の買物などいろいろな場面でふとした時に)
母親(祖母)と子どものやり とりを見て/話を聞いて思ひ 出す	母親への感謝 の念	10	いつも子供優先の人だったなあと思う。 母は偉大だと思う お母さんに対する感謝のきもち
	母親のよう になりたい	4	自分の母のように、私も大きな愛情を子供に注いであげたいと思う 普段はととても明るく、よく話をしたり聞いてくれたりして、怒る時は怒ってくれた。自分も同じ ような子育てをしたいと思っているし、出来ていると思う
母親への葛藤 的な思ひ	母親へのネガ ティブな思ひ	7	子どもがなかなか泣きやまないときに、自分もそのようなことがあり、母親に外に出されたこと。 病気になるとしかられる
	反面教師	6	母さんは私に関心が薄かったので、なるべくは子供の話を聞いてあげるようにしています いつも仕事していたので、自分はそこまでしたくない。
その他		59	

見られた(32件)。また、「感情的で幼い母親みになりたくないと思っていたが、イライラするとその姿は私と重なる」など、嫌だと思っていた母親の行動と同じことをしていることに気づかされるといった内容も見られた。一方、子どもを叱りながら、「イライラして子供に当たってしまうときに、自分の母はこんなことしてなかったなと思う」など、自分は子どもに怒ってしまうが、母親はそんな風ではなかったという自己嫌悪にもつながる回答も多かった(〈自分は叱ってしまうが母は違ったとの思い〉10件)。

次に、《子どもが泣き止まない、痲癩等大変なとき》に、「夜泣きや、授乳、日中の相手が大変なとき、離乳食やごはんをつくるとき、毎日母がこんなに大変な思いをして育ててくれたんだなあと思う」など、〈子育ての大変さを実感し母親の苦労を思う〉内容が多く見られた(36件)。また、「1人の相手でも大変なのによく3人の相手をしたな」など、〈大変な育児を母親はそうと感じさせずにしていたことへの尊敬〉といった内容も見られた(8件)。

3つ目の大カテゴリーとして、《子どもの世話をしている中で、母親がしてくれたことを思い出す》内容が見られた。その中でも、最も多く挙げられたのが、〈寝かしつけをしているとき〉であった(39件)。次に多かったのが〈病気するとき〉で17件であった。「子供が風邪をひいたとき、すりりんごを作ったり…(中略)…ときに、全て自分の母親が、私が風邪をひいたときにしてくれたことだと思い出した」など、母親がしてくれたのと同じことを我が子にもしている様子が伺われた。3番目には〈(絵)本を読んでいるとき〉で15件の回答が見られた。4番目は〈授乳時〉で6件であった。その他にもさまざまな育児場面で、昔母親にしてもらったことを今自分も我が子にしてあげているなど思うことが多くあげられていた。また、現在祖母となった母親が自分の子どもと関わる姿を見て、昔自分が育ててもらった当時を振り返る内容も見られた(〈母親(祖母)と子どものやりとりを見て/話を聞いて思い出す〉)。

4つ目の大カテゴリーとして《母親へのポジティブな思い》が見られた。「いつも子供優先の人だっ

たなあと思う」、「母は偉大だと思う」など、〈母親への感謝の念〉と(10件)、「自分の母のように、私も大きな愛情を子供に注いであげたいと思う」など、母を見本として〈母親のようになりたい〉と思っている内容(4件)が見られた。

最後に《母親への葛藤的な思い》に関する記述が見られた。「子どもがなかなか泣きやまないときに、自分もそのようなことがあり、母親に外に出されたこと」を思い出したり(7件)、「母さんは私に関心が薄かったので、なるべくは子供の話を聞いてあげるようにしています」など、母親を〈反面教師〉として、自分は違う形で我が子に関わろうとしている内容が見られた(6件)。

## 4. 考察

### (1) 幼少期の母親との出来事の想起と育児困難

はじめに、母親について思い出された内容について、「ネガティブ想起」、「ポジティブ想起」、「両価的想起」、および「想起なし」の4つの大きなカテゴリーに分類した。これらは、4つ目の「想起なし」を除外すると、Ainsworth et al. (1978)らの愛着の3つの分類に概ね相当する内容と考えられる。この4群で就学前の母子関係尺度の得点を検討したところ、「安定的な母子関係」については、「ポジティブ想起」と「両価的想起」に分類される記述をした群の得点が高く、「拒否的な母子関係」では、「想起なし」および「ネガティブ想起」の群の得点が高いことが分かった。さらに、「アンビバレントな母子関係」では、「想起なし」群の得点が最も高く、また、有意差はなかったものの「両価的想起」群の得点も次いで高いことが分かった。これらの結果から、尺度による母親との幼少期の経験の認知と、自由記述による母親とのエピソードから推定される幼少期の関係性は概ね一致することが分かった。

次に、「非統制的養育態度」および「被害的認知」得点について見てみると、「ポジティブ想起」群と「両価的想起」群よりも「想起なし」群の方が被害的認知をしていることが分かった。被害的認知とは、子どもの「泣きやまない、親の言うことを聞かない」



などの反応を、自分に対する攻撃や非難と捉えたり、「(子どもの〇〇の行動は)私を困らせるためだ」といった敵意と捉えたりする傾向であり(曾田・大河原, 2014)、虐待をしてしまう親にこのような被害意識が見られることは指摘されている。すなわち、被害的認知の高さは虐待等、不適切な養育につながる可能性を示唆していると言えるが、本研究では、「想起なし」群で最もこの傾向があることが示された。なお、「子どもを怒鳴りだすととまらなくなる」、「イライラしてつい手をあげてしまうことがある」といった不適切な養育とも捉えられる非統制的養育態度については、点数に若干の違いは見られたものの(「ポジティブ想起」群と「両価的想起」群で低い)、有意な差は見られなかった。しかしながら、これらの得点を見てみると、いずれの群も3.00前後であり、必ずしも低くないことが分かる。もちろんこれは母親の主観的な認知であり、実際に手があがっているかは分からないが、このような非統制感を持っている母親が必ずしも少なくないことは、子育て支援を考える際に重要な点と言えるだろう。

なお、今回、自由記述の結果から得られた4群のうち、「想起なし」群が最も育児困難を抱えている群と見ることができる。「想起なし」群は自由記述で回答を求めた内容について、「特になし」「思い出せない」といった回答をした人たちであるが、本研究で用いたオンライン調査は何らかの回答をしなないと画面が進まないため、自由記述の質問に対して未記入で進むことはできない。そのため、この群の人たちは、単純に未記入ではなく、幼少期の母親との関わりがどのようなものであったのか、印象に残るものはない、あるいは思い出せないと考えられる。成人の表象レベルの愛着を把握するために Main (1984) らによって開発された成人愛着面接では、不安定な愛着の指標の1つとして、過去の記憶について容易に想起することができないことがあげられている(数井他, 2000)。今回の調査において、「ネガティブ想起」群よりもむしろ、「想起なし」群の方が被害的認知等の得点が高かったことは、「母親の記憶といえば怒られた事ばかり」と語る人よりも、

母親のことを何も語れない人の方がより深刻であり、注意を向けていく必要があることが示唆された(もちろん、どちらもしっかりと話に耳を傾けサポートをしていくことは前提である)。

## (2) 子育ての中で感じられる過去の母子関係

子育てをしている中で思い出される母親の記憶について、大きく5つのカテゴリーに分類した。その中で最も多く見られたのは、「子どもの世話をしている中で、母親がしてくれたことを思い出す」であった。その内容としては、寝かしつけ、病気のとき、絵本を読んでいるときなど日常の何気ない場面であり、日々の子育ての中で、かつて母親がしてくれたことを思い出し、今自分が同じことをしていることを実感するのであろう。母から子へと受け継がれる世代性のようなものを感じながら(栃原, 2012)、母親としての自覚が増し、子どもの成長とともに母親としてもまた育っていく姿が想像できた。

また、「子どもが泣き止まない等大変なとき」に母親も同じような思いをして育ててくれたことを実感する、との回答も多く見られた。子育ては当然、手のかかる大変なものである。しかし、そんなとき、かつて母親がしてくれたことを思い起こし、母と今の自分を重ね合わせることができるならば、それは今の大変さを乗り越える力にもなるであろう。このように考えると、幼少期に母親に手をかけてもらった記憶がなければ、育児はただ大変で苦痛なものとしか感じられないであろう。

一方、「子どもを叱るとき」との回答も多かった。子どもを叱りながら、はっと自分の母親と同じであることに気づくということだろう。母と同じであることに嫌悪を感じている回答もあった。嫌だと思いつつも母親と同じことをしている苦悩は二重の苦しみであり、母親の自己肯定感を低めるであろう。しかし、虐待をしてしまう親は自らの親と同じことをしていることに無自覚であることが多く、虐待への治療的介入はそれを自覚することから始まる。このように考えると、母親が自覚的であることは、無自覚であるよりも断然よいのであるが、母親自身の

メンタルヘルスを考える上で心配である。また、〈自分は叱ってしまうが母は違った〉と感じている人も多かった。祖父母世代に比べて、現在、育児困難はますます強まっているとも言われている（大高，2016）。矛盾するようであるが、児童虐待が世間で大きく取り上げられることにより「正しい育児」へのプレッシャーはますます高まり、子育てを一層困難なものにしている。同時に、核家族化が進み、地域社会も変化する中で、親以外の大人が子どもの躰に関わることがなくなり（滝川，2016）、親はますます子どもの養育に神経を尖らせるようになったと言えよう。

今回の調査を通して、多くの人々がふとした時に過去の母親との関わりを思い出し、母親の関わりと同じだと思ったり、比べたりしながら日々の子育てをしていることが伺われた。このように母親の表象世界にあるかつての母親との対話は、育児の大変さを感じたり、迷ったりしたときに母親を支える力になると考えられる。そして、このような内なる支えない母親にとっては、子育ては想像以上に大変なものになることは想像にかたくない。子育て世代をサポートする支援者は、母親がどのようなことに困難を抱えているのか、寄り添い話を聞くことで母親の内に新たな母親像を育てていくことが重要であろう。

## 5. 文献

- 曾田理沙・大河原美以（2014）. 児童虐待の背景にある被害的認知と世代間連鎖—実母からの負情動・身体感覚否定経験が子育て困難に及ぼす影響— 東京学芸大学紀要 65 87-95.
- Ainsworth, M.D.S., Blehar, M.C., Waters, E., & Wall, S. (1978). *Patterns of Attachment: A psychological study of the strange situation*. Hillsdale, NJ: Erlbaum
- 井梅由美子（2011）. 青年期女子の母娘関係と対象関係. 東京未来大学紀要, 4, 27-35.
- 数井みゆき・遠藤利彦・田中亜希子・坂上裕子・菅沼真樹（2000）. 日本人母子における愛着の世代間伝達 教育心理学研究 48 323-332.
- 厚生労働省（2017）. 平成28年度児童相談所での児童虐待相談対応件数<速報値> <http://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/0000174478.pdf>（2018年3月15日）
- 小橋明子・入江明美（2011）. 子育ての動向に関する研究 育児不安・虐待等の増加に対する子育て支援について 札幌大谷大学札幌大谷大学短期大学部紀要 41, 65-74.
- Main, M., & Goldwyn, R. (1984). *Adult Attachment scoring and classification system*.
- 内閣府（2001）. 平成13年度国民生活白書 <http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/wp-pl/wp-pl01/index.html>
- 大高一則（2016）. 子育て困難—地域を耕すということ— そだちの科学「子ども虐待」はなぜなくなるらないのか 27 日本評論社 9-14
- 酒井厚（2001）. 青年期の愛着関係と就学前の母子関係：内的作業モデル尺度作成の試み
- 園田菜摘（2012）. 母親の育児不安に関する研究：サポート、子どもの気質、養育行動との関連
- Stern D.N. (1995). *The Motherhood constellation: a unified view of parent-infant psychotherapy* 馬場禮子・青木紀久代訳 親乳幼児心理療法—母性のコンステレーション— 岩崎学術出版社
- 滝川一廣（2016）. 子どもを育てる難しさと子育ての失調 そだちの科学「子ども虐待」はなぜなくなるらないのか 27 日本評論社 2-8
- 柘原京子（2012）. 乳幼児を育てる母親が体験する自身の乳幼児期の「ポジティブな追体験」に関する一考察 近畿大学臨床心理センター紀要 5
- 渡辺頭一郎・橋本真紀・子育てひろば全国連絡協議会編（2014）. 地域子育て支援拠点ガイドラインの手引—子ども家庭福祉の制度・実践をふまえて 中央法規出版
- 渡辺久子（2008）. 子育て支援と世代間伝達 金剛出版
- （いうめ ゆみこ）東京未来大学